

令和元年度指定管理者制度活用事業 評価シート(こども文化センター)

1. 基本事項

施設名称	官前区第1グループ(宮崎・有馬・野川)	評価対象年度	令和元年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	H30		R1		H30		R1	
	1 宮崎こども文化センター ①年間延べ利用者数	51,008人	42,634人	②年間延べ利用団体数	1,853団体	1,646団体		
2 宮崎小学校わくわくプラザ ①登録者数	523人	518人	②年間延べ利用者数	37,052人	36,692人			
3 宮崎台小学校わくわくプラザ ①登録者数	420人	432人	②年間延べ利用者数	25,583人	26,207人			
1 有馬こども文化センター ①年間延べ利用者数	27,421人	24,568人	②年間延べ利用団体数	406団体	375団体			
2 西有馬小学校わくわくプラザ ①登録者数	476人	489人	②年間延べ利用者数	26,705人	29,257人			
3 有馬小学校わくわくプラザ ①登録者数	171人	189人	②年間延べ利用者数	13,128人	12,982人			
4 鷺沼小学校わくわくプラザ ①登録者数	481人	514人	②年間延べ利用者数	30,019人	31,757人			
1 野川こども文化センター ①年間延べ利用者数	43,192人	39,562人	②年間延べ利用団体数	420団体	389団体			
2 西野川小学校わくわくプラザ ①登録者数	194人	174人	②年間延べ利用者数	8,569人	8,767人			
3 野川小学校わくわくプラザ ①登録者数	275人	325人	②年間延べ利用者数	17,575人	20,755人			
4 南野川小学校わくわくプラザ ①登録者数	202人	188人	②年間延べ利用者数	13,215人	10,990人			
収支実績	単位:円 1 収入 指定管理料 213,952,608 補償金 1,754,892 合計 215,707,500 2 支出 人件費 180,379,434 管理費 15,424,251 事務経費 8,728,572 その他経費 10,224,632 合計 214,756,889 3 差引 950,611							
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。							

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	3	6
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全育成が図られているか。			
(評価の理由) ・仕様書・事業計画に基づき、こども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・こども文化センターでは、官前区第1グループ共同で野外活動事業「れい！わ！キャンプ☆2019」を実施して、キャンドルンタン制作やバーベキューなどを通して自然の中で交流を行ったほか、多世代連携事業としての「リアル脱出ゲーム」(有馬)や多世代連携・運営協議会共催事業として「さんま祭」(宮崎)などを実施し、小学生たちが子ども実行委員として活躍し、世代間及び地域の方々と交流を図り、児童の健全育成を図った。					
サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ及びセルフモニタリング	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	4	8
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		セルフモニタリングについて、適切に実施しているか。			
		利用ニーズの把握、セルフモニタリングの実施の結果、業務改善につながっているか。			
	苦情等への対応	利用者からの苦情や指摘事項、意見への対応などが適切に行われているか。	5	3	3
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	4	4
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体、地域住民、施設等との連携がなされているか。	10	3	6
施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	4	4	
わくわくプラザの充実	・①わくわくプラザ多世代交流促進事業、②学習タイム、③わくわくプラザメール配信サービス、④「地域の寺子屋事業」との連携(実施していないわくわくプラザについては、実施に向けた検討・調整等)について取り組み、わくわくプラザ事業の充実を図っているか。	5	4	4	
(評価の理由) ・利用者ニーズ及びセルフモニタリングについては、行実施後にアンケートにて意見を収集しており、要望の多い事業については、もう一度年度内に実施するなど要望に応えている。また、第三者評価調査資格者を中心に「わくわくプラザ運営確認シート」を作成し、セルフモニタリングを実施したほか、他施設の職員等で構成された調査班が施設を訪問して運営状況を確認することにより、運営の更なる改善とサービスの均質化を図った。 ・苦情等への対応について、苦情処理の体制・手順について整備され、相談窓口について利用者へ周知されている。結果として、大きな苦情事案はなかった。 ・特別な配慮を要する利用者への対応について、利用登録の際にアンケートをもとに保護者に聞き取りを行い具体的な対応について検討し、受け入れ後は児童の様子を保護者に伝えるとともに家庭での様子を聞き取ることで個々の状況に沿った対応に努めた。グループ内わくわくプラザについて、配慮を必要とする児童について、症状の発生時の対応方法を主治医に確認するほか、学校側施設利用について学校と調整を行い個々の状況にあった対応を行った。 ・学校及び行政機関との連携(学校や発達相談支援センター、児童相談所、地域療育センターなど関係期間との意思疎通に努めるとともに、増加傾向にある放課後デイサービス事業者とも連携して児童の様子や情報共有に努めた。 ・施設・事業の広報について、地域住民をターゲットに新たな広報誌「地域版こども文化センターだより」を発行し、施設の利用案内や活動報告の周知を行ったほか、「かわさき子育てアプリ」を活用した行事等の広報、かわさきFMと連携して、施設や活動のPRを行った。 ・わくわくプラザの充実については、平日に学習タイムを設定し、子どもたちが学校の宿題等に落ち着いて取り組む時間と環境を提供し、自学・自習の学習習慣の形成を図ったほか、多世代連携事業として、「有馬老人いこいの家に行こう！」(西有馬小)などの企画を通じて、高齢者と昔遊びなどを一緒にして交流を図った。					

組織管理体制	こども文化センターにおける適正な人員配置	<ul style="list-style-type: none"> 「仕様書」において定める職員配置の最低基準が遵守されているか。⇒①館長1名配置、②スタッフリーダー2名以上配置、③館長とスタッフリーダーの勤務を割り振らない日が重ならないように配置、④利用時間を通じて常勤職員1名以上配置⑤常勤職員配置1名の場合パートナーを配置、⑥12時30分から18時まで常勤職員2名以上配置(常勤職員を配置できない場合、常勤職員1名につき、パートナー2名の配置) 	5	3	3
		「川崎市契約条例」が遵守されているか。			
	わくわくプラザにおける適正な人員配置	<ul style="list-style-type: none"> 「仕様書」において定める職員配置の最低基準が遵守されているか。⇒①長期休業日等の開室時間の延長対応、②放課後児童健全育成事業の対象児童以外の利用児童概ね20名につき、チーフサポーター1名以上配置、③参加児童数の多い時間帯に学校の特別教室等を使用して、複数箇所に分かれて事業を実施、④わくわくプラザ事業に、月～金の9:30から18:00まで常勤職員を配置 	5	3	3
		「川崎市契約条例」が遵守されているか。			
	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。		10	4	8
	職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。				
	個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3
	<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> こども文化センターの適正な人員配置については仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。 わくわくプラザの適正な人員配置については仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。 職員の研修体制については、職員が市の研修を受講するとともに分野ごとの法人としての研修が行われている。予め研修計画を立てた上で館長主導で各職員の研修受講の促進及び管理を行っている。また、館内会議やスタッフ会議等において、研修を受講した職員が報告しているほか、研修資料やレポートをファイル等に一元化し、職員が閲覧できる等、知識を共有している。 個人情報の取扱については、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報等は鍵のかかる保管庫に保管されている。また個人情報の漏洩の事実はなかった。 				
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備(AEDを含む)の保守・点検を適切に行っているか。	5	3	3
		建築物定期点検及び建築設備定期点検の実施が適切に行われているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	10	3	6
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
施設防犯対策に工夫がなされているか。					
	災害発生時に備えた対応が図られているか。				
	災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。				
	<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の保守管理については、こども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を日常的に行い、修繕・補修が必要な場合は本部組織を中心に各施設の修繕要望から優先順位を考慮し、適宜補修工事等を実施している。 利用者の安全確保については、全ての職員が適切な対応ができるよう「事故対応・報告マニュアル」、「事故対応の流れ」を整備して適切に対応しており、事故発生時は「事故発生送付票」、「事故報告書」に記録し、報告が行われている。感染症対策については、「衛生管理マニュアル」を整備し、抗菌剤、消毒剤、消毒液などの購入と使用期限経過に伴う入れ替えを適切に実施している。また、子ども自身の手で地域の安全マップを作成し、地域を回って交通量の多い道や不審者が出やすい場所等を確認している。また、熱中症対策としての室温管理やアレルギー事故防止として食品提供の際の基本的な特定原材料等の掲示と調査票に基づく確認、外遊び前の準備運動やトランシーバーを活用した連絡体制の強化などを行っている。 防犯対策及び災害時の対応として、宮前区警察署の職員を招いて防犯研修を実施したほか、NPO法人ファンズアスリートクラブによる講習を受けて防犯意識意識の向上を図った。また、避難・消火訓練を毎月実施し、場合によっては、地域や学校と連携し実施に即した内容となるよう工夫している。 				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
		効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
	支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。				
	<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正な金銭管理・会計手続について、法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされている。 受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。 				

4. 総合評価

評価点合計	67	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

<p>こども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に長年に渡り携わってきた経験とノウハウを活かして施設運営を安定して実施している。また、市内20グループの指定管理を行うスケールメリットを活かして、区内、グループ内の児童が集う合同事業を定期的開催し、子どもたちの親睦と交流の輪を広げる取組を積極的に行ったほか、職員会議や館長会議を通じて情報交換を行って、安価でニーズの高い事業の横展開を図ることにより、多彩で豊富な行事を企画して実施した。</p> <p>また、利用者及び保護者へのアンケート調査を中心に、運営協議会、子ども運営会議、保護者懇談会での意見交換や意見箱の設置を行って利用者ニーズの把握に努めるとともに、経験や役割に応じた研修を計画的に実施、受講できる体制を整えるなど、職員の資質向上を図り、全体として良質なサービスを提供した。</p>

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

<p>今後においても地域の子どもたちが安心して過ごせる居場所を提供し続けるとともに、市民活動における地域の拠点となり、また、地域をつなぐハブとしての役割を果たしていくため、利用者ニーズをより精緻かつ定量的な方法で把握し、更なる利用しやすい環境を整備していくこと。また、地域包括ケアシステムの構築に寄与するべく、多世代交流をはじめとする地域交流を推進し、子どもの健全育成と地域のつながり強化のための取組をより積極的に実施すること。また、新型コロナウイルスの感染予防のための「新しい生活様式」を踏まえたこども文化センター及びわくわくプラザの運営に取り組むこと。</p>
--